

平成30年白老町議会産業厚生常任委員会会議録

平成30年10月18日（木曜日）

開 会 午前10時40分

閉 会 午前10時50分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. 高齢者住宅の現状と今後の方向性についての進め方について
-

○出席委員（6名）

委員長	広 地 紀 彰 君	副委員長	本 間 広 朗 君
委員	氏 家 裕 治 君	委員	森 哲 也 君
委員	山 田 和 子 君	委員	松 田 謙 吾 君
議長	山 本 浩 平 君		

○欠席委員（なし）

○職務のため出席した事務局職員

主 査	小野寺 修 男 君
書 記	葉 廣 照 美 君

◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） ただいまより産業厚生常任委員会を開会いたします。

（午前10時40分）

○委員長（広地紀彰君） 所管事務調査について、まず1点目として高齢者住宅の現状と今後の方向性について、これに関する進め方について皆様に協議をいただきたいと考えます。

お手元に資料を2枚配布させていただいています。サ高住の制度概要について等々、事務局だまどめていただいた部分と前回2回担当課より説明を受けてと委員会協議を行っております。その中での調査に関する意見としては大きく3点としてまとまっております。今回、震災等々の対応もありまして所管事務調査の延期をしたところですが、12月には報告をしたいと考えております。それで、このままこういったような体裁で整理をして所管事務調査としての意見のまとめとして提出するか、もし今若干のいとまがありますので必要であれば例えば近隣の市町村、苫小牧市等々にサービス付きの高齢者住宅等ありますので、そういった部分を実際に視察もしてそのあと意見をまとめるか、いずれかの方法で進めたいと考えておりましたが、何か進め方の意見についてのご意見ございませんか。

氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 氏家です。前にこのサ高住の説明を受けて、白老町は基本計画の中でこれを進めていきたいという話をしているけれども、現実としてこのサービス付き高齢者住宅のサービス提供料というのは大体1カ月約9万円近いお金になるということなのだよ、まずはっきり言って。今後、白老町に60戸のサービス付き高齢者住宅があります。それ以上に今後9万円近いお金を出して、そこを必要とする人が出てくるのかなと思って、それを心配するので。例えば森野にある恵和園あたりは定額所得者の方々でも国民年金もらって月6万円くらいの人でも入れるように、ああいったものが今後必要だと思ながらももうできないということ言われているし、その辺をもう少し白老町にとって本当に必要性があるのかどうかということも含めて考えていかないといけないのではないかなと思って。それ以上にサービス付き高齢者住宅を進めるのだとって、どれくらいの規模のものを考えているのかということも含めて、もう一度立ちどまって考えて常任委員会としての意見、考え方を出すべきではないのかなと。

○委員長（広地紀彰君） 利用者負担や需用量を精査する中で白老町の必要性といった部分もきちんと把握をしながらまとめていくべきではないかというご意見ありました。皆様いかがですか。それだともう一度、例えば担当課等呼んで考え方等ただしていくと、そうなってくると建設課のほうの住生活の関連も出てくると思うので、前回福祉の分野から高齢者に対しての施策としての捉えで担当課も呼んでいましたけれど、今回は建設課も呼んで住生活基本計画との関連性についての話になってくるのかなと。確かに前回建設課きていないですよ。そういった部分は必要ではないかという、これについてはよろしいですか。

氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 今に関連することなのだけれども白老町民のどれくらいの割合の人た

ちが、これは資料としてもう出ていると思うのだけれど、所得もしっかり見ていかないといけないと思うのです。国民年金の生活者の人たちは独居だと100万円いていないでしょう。70万円くらい。そういった人たちが果たして本当にそういったところに入れるのかどうかということも含めて考えていかないと、一部の人のためにつくるのであれば、それはそれにきちんとした理由づけをして持っていかなければいけないだろうし、大方の町民の方々が要望しているものができるのであればいいのだけれど、そうでないのであればもう少し慎重に議会としても考えていかなければならない。

○委員長（広地紀彰君） 所得との関連性、これがいわゆるホテルコスト等々と利用者負担にかかわることありますから、こういった部分も調査の視点として加えたらいかがかというご意見いただきました。今のご意見に関連して、さまざまな意見で結構です。ほかの進め方について。

山田委員。

○委員（山田和子君） 山田です。氏家委員がおっしゃたようなことを含めて老朽化した現町営住宅を今後どうするのか、高齢者入居対策としてサービス付き高齢者住宅の推進を考えていくところの意見が述べられたように記憶しておりますし、そこに支援を行政としてどう低所得者の方にしていくかというのは政策の話になってきますので担当者呼んでどうこうということでもないのかなというふうには思いますけれども、そのことを少しつめて委員会として政策的にこういう政策も今後必要ではないかという議論はしていくのは重要ではないかというふうに考えます。

○委員長（広地紀彰君） そうですね。基本的な考え方は高齢者介護担当課はあまり持っていないと。実施計画の基本計画の中で整理しているというような形なので、もう少し町側の方向性を私たちただしていく必要がある部分も確かにある。

あと、ほかにございますか。

本間副委員長。

○副委員長（本間広朗君） 今10月なので例えばこれが12月の定例会に報告するとなればまだ時間がありますので、もう一度担当課を呼んでやるか、時間があつたらほかの施設を見に行くということも可能だと思いますので、それまでに1、2回開けると思いますので、ぜひそのような形でやっていければなと思います。

○委員長（広地紀彰君） ある程度、総括的なご意見頂戴しましたが、もう1、2回ほかの部分と重ねてなるべく議会日程煩雑にならないように配慮しながら、そのような場を設けてはという意見ありましたが、そのような形で進めていかがですか。

森委員。

○委員（森 哲也君） 森です。氏家委員が言われたとおりに、この問題気にかけるところでありまして実際にこのサービス使ったらこの値段プラスサービス料というのも上乗せされるので、トータル的に住居とサービスといたら本当に一人一人には測れない値段が出てくると思うのです。そういう現場の実態とかも本間委員言われたとおりに見れるのだったら見に行ってから意見をまとめたほうがいいのかなとは思いますが。

○委員長（広地紀彰君） そのような進め方でよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） それでは、ご意見集約させていただいてもう1、2回その具体的な担当課、建設課等もまだつめていませんし、また現場の実態も把握してはといういった部分、さらには町内の利用者負担に関連した所得の関係も整理をして意見をまとめていくべきだということで意見を整理したいと思います。そのように進めさせていただきます。担当課と協議して日程等については別途また皆様にご通知をさせていただきたいということでよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣告

○委員長（広地紀彰君） ないようですので、以上で産業厚生常任委員会を終了いたします。

（午前10時50分）